



オーストラリア

よりよいプライバシーポリシーを

● CHOICE ホームページ <https://www.choice.com.au/privacyreform>
<https://www.choice.com.au/privacycomparison>

ECサイトの利用やアプリのダウンロード、ポイント会員などの登録には、個人情報の収集、利用、第三者へ提供する際の個人情報保護方針を表明したプライバシーポリシー(以下、ポリシー)を読み、ボタンをクリックするなどして同意を求められる。どのくらいの人を読んだうえで同意しているのか、CHOICE(オーストラリア消費者協会)が調査した。

その結果、インターネットにつながるデバイスを1人当たり平均8台保有し、平均116件のポリシーに同意していたという。しかし、半数以上が全文を読んだことは無く、まったく読まない人も4割以上に上った。主な理由は「長い」と「難しい」である。

CHOICEが調べた利用者の多いECサイトや行政のQRコードなど75件のポリシーは平均約4,000語で読むのに約16分かかるといふ。最も長いのは

世界的ソフトウェア企業のもので14,800語余り、59分15秒を要した。

また、文章校閲アプリを使って前述の75件の分かりやすさを判定したところ、ほとんどの人が理解できる平易な文章が60～70点とされるところ、8割が50点以下の分かりにくい文章であった。一方、全文を読み理解したうえで同意できない点があっても、利用するには同意する以外の現実的な選択肢が無いという不満も多く聞かれた。

CHOICEは、通知と同意という消費者の責任に依存する今のポリシーのあり方では個人情報の悪用は防げないと指摘し、政府が検討中のプライバシー法改正案において、企業の責任で公正に個人情報の収集・利用等が行われることを法的に義務づけるよう規制の強化を要請している。



アメリカ

コンシューマーレポートの自動車ランキング

● CRホームページ <https://www.consumerreports.org/cars-best-cars-top-picks-2022/>
<https://www.consumerreports.org/car-safety/rear-seat-safety-score-a6624241141/>

例年、CR(コンシューマーレポート)誌4月号は自動車特集。そこで発表されるその年の自動車メーカーと各部門別のランキングは世界的にも定評がある。CRは、毎年50台ほどの車両をディーラーから覆面購入し、広大なテストコースで加速や制動、緊急時ハンドル操作などの走行テストを行うほか、600万人超の会員から収集した故障データに基づく信頼性やドライバー満足度、安全性などを総合的に評価してランキングを決定する。2022年のメーカー上位および部門別上位の多くを日本車が占めた。例年の評価項目に加え、今年は特にFCW(前方衝突警報)や歩行者検知機能付きAEB(自動緊急ブレーキ)などの先進安全機能の標準装備が重視された。

さらに2021年からは後部座席の安全性テストも開始され、これまでに約40車種の評価を公表して

いる。後部座席には子どもから高齢者まで幅広い年代が座るため、チャイルドシートやブースターシート*の装着しやすさ、年間40人近い子どもが犠牲となる車内熱中症防止のための後部座席置き去りアラーム、シートベルト装着アラームやヘッドレストの有無などの項目を評価、点数化して公表している。

NHTSA(道路交通安全局)によると、衝突時に骨盤と胴体部を保護するサイドエアバッグ、衝突時にシートベルトを自動調整して身体を守るプリテンショナーやロードリミッターなどの後部座席への搭載は前部座席に比べてかなり少ない。CRはこれまで後部座席の安全機能に関する情報が提供される機会も少なかったとして、今後はテスト対象車種を拡大し消費者の安全な車選びに貢献したいとしている。

* 車の座面を上げて背の高さを補うもの



ドイツ

お勧めできないドライシャンプーの連続使用

- 「エコ・テスト」2022年1月号
https://www.oekotest.de/kosmetik-wellness/Trockenshampoo-im-Test-Nicht-fuer-den-Dauergebrauch-zu-empfehlen_12327_1.html
- 商品テスト財団「テスト」2019年11月号
<https://www.test.de/Trockenshampoo-im-Test-Spruehen-statt-waschen-klappt-das-tatsaechlich-5529713-0/>

水で洗い流さなくても髪や頭皮を清潔に保てるとして、1970年代に流行したドライシャンプー。近年、スプレー式、粉末式、シート式など種類も豊富となり、ドイツでは第2のブームが訪れているという。災害用グッズのイメージが強い日本とは異なり、「出勤前の洗髪時間を節約したい」「髪形をパーティー向けに短時間でまとめたいたい」という使い方がドイツ流である。

しかし、ドライシャンプーの安全性等について不安視する声もあることから、「エコ・テスト」では成分等を中心とするテストを行った。対象はスプレー式15商品、粉末式5商品の計20商品。その結果、18商品が「非常によい」または「よい」という好成績を獲得した。一方、合成ムスクなど疑義ある成分を数種類含む1商品が、落第点となった。

このように、成分的にはほとんどの商品に問題が無かったが、誤って吸い込まないように、同誌は注意を促す。エアロゾルが噴霧されるスプレー式はもちろん、粉末式であっても粒子が細かいと吸い込みやすく、炎症等を起こす可能性があるからだとする。そこで、気管支が敏感な人は、ドライシャンプーを使用しないほうがよいと助言する。また、健康な人も含めて、使用中は十分な換気が必要だという。

さらに、ドライシャンプーは、水で洗い流す本来のシャンプーの代わりにはならないと指摘する。ドライシャンプーによって取れた皮脂等は、水で洗い落とせないため髪や頭皮に残り、汚れが蓄積されていくのだという。そこで、ドライシャンプーを2回続けた後には、通常のシャンプーで根本的に洗い流すのがお勧めだという。



スイス

あなたの不用品を必要とする人がいるかも

- モルジュ市ホームページ <https://www.morges.ch/vivre-a-morges/developpement-durable/agenda-21/boites-d-echange-entre-voisins-6328>
- コンフィニオン村ホームページ <https://www.confignon.ch/boitechanges>
- フランス経済・財務・復興省ホームページ
<https://www.entreprises.gouv.fr/fr/etudes-et-statistiques/dossiers-de-la-dge/enjeux-et-perspectives-de-la-consommation-collaborative>

スイスの路上に点在する脚付きの箱。ロボットのよう顔が描かれているものや、現代アートで装飾されているものもある。道行く人々がときどき足を止めて、箱の中を確認している。これは、地元の住民間で、不用品を交換するためのボックスである。スイス初のボックスは、ジュネーブの個人が始めたもので、現在、ロマン地域(フランス語圏スイス)を中心に、同様の活動が広がっている。

しくみは単純で、使わなくなった物を誰かがボックスに入れると、欲しい人がそのまま持ち帰るというもの。まだ使えそうなCD、DVD、玩具等が次々とボックスに投入される。手に取った人が家に持ち帰り、再利用することで、物にもセカンドライフが与えられることになる。交換といっても、物を持ち帰る

人が、代わりの物を入れる義務は無い。ボックスを置くことで、物を介して見知らぬ住民同士が結び付き、物を大切にできる社会への移行が期待されている。

このように、大量消費社会から脱却する試みとして、スイスではほかにも「修理カフェ」や「モノの図書館」等があり、拠点を増やしている*。ヨーロッパでは近年、このような手法を包含する「コラボ消費」という言葉も使われている。物を単独で所有するのではなく、数人で共有、または交換、貸し借りするほうが合理的と考える消費者が増えたためである。これらを後押ししているのが、ネット環境の普及である。ネットを介して、自家用車への同乗、知識の教授、寝場所の無料提供等、さまざまなサービスが見知らぬ人との間で交わされている。

* ウェブ版「国民生活」2018年11月号「海外ニュース」参照
https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11436742/www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201811_08.pdf